

万年筆は、これからが面白い！



4本のHEMINGWAY



大阪・大西万年筆の大西さん



日本の戦後の万年筆

カバンが、人物が、街並みが、万年筆の線描で命を吹き込まれる。



小林哲夫のかばん



Nの肖像



ボローニャ

今回、万年筆で描いた稲敷市内の風景画 20 点あまり、スペインやイタリアを中心とした国内外の風景画 19 点、アクリル絵の具と万年筆の混合技法作品など9点。古山氏が挿絵を担当した絵本やその原画、『万年筆の達人』の挿絵として描いた万年筆の原画と愛用の万年筆などを展示。



ふでDEまんねんの使いかた



阿波・古い土蔵

古山浩一（ふるやま・こういち）：昭和 30 年（1955）東京都生まれ。父の仕事の関係で青森へ転居する。青森県立青森高等学校より岩手大学教育学部へ進み、筑波大学大学院芸術専攻修了。茗溪学園中等部・高等部美術科教諭となる。昭和 61 年（1986）上野の森美術館大賞展・佳作賞、平成 3 年（1991）日仏現代美術展・大賞、平成 6 年（1994）日仏現代美術展・エコールナショナルシュペリオールデボザール賞第一席などを受賞。平成 12 年（2000）茗溪学園退職。画家、絵本作家、随筆家として活躍中。現在、稲敷市月出里在住。